玖波中だより No.12

大竹市立玖波中学校　令和６年１１月１日

学校教育目標「『なりたい自分』に向かって、挑戦する生徒の育成」

発行責任者　小田　大介　　文責　藤川　健二

平和について、気づく、思う、平和のために動く

10月15日(火)には、被爆体験伝承者の宮本由美様をお迎えし、8月6日に原子爆弾が投下された時の様子、戦後、今の平和記念公園が完成するまでの様子、完成してから、今までのことがなかったかのように復興した広島を見てきて育ったご自身の気持ちをお話していただきました。

また、10月23日(水)には、平和記念資料館の見学、ピースボランティアの方との平和記念公園のフィールドワーク、おりづるタワーの見学等を行いました。

この2回の学習を通し、広島で生活をする一人として、「哀しみ」や「希望」があることを学んだ学習になったことを願っています。

このような学習の後、「戦争は怖い」「戦争をしてはいけない」「平和を維持しなくてはいけない」という気づきや思いをよく耳にします。そのように気づくこと、思うことも大切なことですが、もっと大切なことは、その後、自分はどう動くのかが大切なことだと思います。「平和」というテーマで考えると難しいかもしれませんが、「みんなが幸せになるために」と考えれば、それが平和に繋がることかもしれません。例えば「困っている友達がいたら助けてあげる」「他人に優しくする」「感謝の思いを持ち、人に接する」「ルールをきちんと守る」等が考えられます。当たり前のことかもしれませんが、このようなことをみんなが出来れば、「平和」のための第一歩になるかもしれませんね。

宮沢章二さんの「行為の意味」という詞から引いた　言葉に『「こころ」は誰にも見えないけれど「こころづかい」は見える。「思い」は見えないけれど「思いやり」は誰にでも見える。その気持ちをカタチに』があります。気持ちや思いをカタチに表すことが、動くということなのだと思います。

今回の学習の目的とは少し違いますが、▲で指す写真は、「子ども科学館」でカバンを置いている様子です。何も指示することなく、整然と並べられていました。今回もまた、玖波中生徒の素晴らしさを発見できました。ありがとう。

文化祭に向けて　～歌詞に思いをのせて～

11月2日(土)に向けて、クラス劇の練習や全校合唱の練習が熱を帯びてきました。パートリーダーを中心に朝の会で合唱練習を行い、その成果も少しずつでているところです。

10月30日(水)には、エリザベト音楽大学の　寺沢　希　様を講師にお迎えし、より専門的な歌唱指導を受けました。音楽のことは、全くといっていい程分かりませんが、時間を追うごとに合唱が柔らかくなり、今までとは違う歌声が響きました。先生の指導の中で歌詞の意味を理解し、情景をイメージし歌うことが大切だということがよく分かりました。本番では、今まで以上のハーモニーが響くことが期待できる時間となりました。

文化祭によせて　～『ありがとう』の目と心を～

文化祭の取組を行うに当たって、成功させるために,「ここは、こうした方がいいよ」「〇〇係、少し進み具合が遅いよ」など意見をぶつけ合ってみてください。それがチームの成長に繋がると思います。ただし、「〇〇の言い方が嫌だ」「〇〇の態度が気に入らない」のぶつけ合いはチームの力を衰退させるどころか、自分の成長の妨げとなります。

チームのために
何ができるのか
『ありがとう』
と言ってもらえ
『ありがとう』
と言える
人になれ
強さとは
優しさだ

ある高校の剣道場に,左のような書が掲げられていたことを思い出しました。文化祭当日はもちろん、文化祭前後の取組の中で『ありがとう』の言葉が飛び交えばいいですね。そのことが,友だちが「自分にはよいところがあると思える」「自分にはよいところがあると思ってもらえている」と感じることができる第一歩ではないかと思います。友だちの良いところ,自分の良いところを見つけることも文化祭の目的の大きな一つなのです。そのためには、『ありがとう』に気づく目と心を養うことも大切ですね。